

タンザニア・ポレポレクラブ

2022年度 事業計画書



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203

(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254

(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>

(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103

2022年度 事業計画／予算

【海外事業】

概要

2022年度のタンザニアでの事業は、昨年度の新型コロナウィルス、物価高、天候不安に加え、さらに円安、ウクライナでの戦争といった不安定要素が加わってきそうです。新型コロナウイルスはアフリカ大陸全体でも相当落ち着いてきていますが、いつまたぶり返すか、いまだ大きな不安があります。一方、物価高については戦争の影響もあり、当面下がる要素が見当たりません。昨今の円安もあり、2022年度も厳しい事業環境が続くことを覚悟しなければなりません。不安定化がさらに増したように思える天候の問題も、確実な育苗を優先しようとするれば現在の苗畑体制を抜本的に見直さなければなりません。これについて結論を出すのはまだ時期尚早でしょうが、今から考えていかなければならない課題となりつつあります。

国立公園の問題は、決着をつける時がきています。山麓住民が望む結果とするための鍵を握っているのは大統領であり、その意向にどう影響を与えられるかにすべてがかかっています。2022年度はそのための取り組みに全力を尽くします。

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンの森における地域主体による森林保全・管理の実現に向けた取り組み

(1) タンザニア森林局（TFS）長官との協議実現

TFS 長官は、国立公園拡大問題の解決にあたり大統領に結論を山麓住民に寄りそったものとするよう助言できるキーパーソンといえる。長官との協議の実現可否、理解と協力を得られるかが、この問題の帰趨を決することになると見ている。昨年度も協議の機会を探したが実現にいたらず、2022年度に引き続き実現を目指す。協議が実現できなかった場合あるいは不調に終わった場合、この問題は山麓住民にとって相当矮小化された問題（見直し対象エリアの限定）として扱われるか、望まない形で決着する可能性がある。

(2) 土地長官への問題提起

大統領の特命により、とくに保護エリアと地域住民との間の土地問題及び紛争解決にあたっている閣僚級特別委員会を招致するため（※）、土地長官にキリマンジャロ国立公園の問題を提起する。問題提起はモシ県、ロンボ島の両県議会から行う方向で進める。

※ 閣僚級特別委員会は、昨年度1回キリマンジャロ入りしているが、住民対話が実現していない。

(3) 山麓住民による地方自治体への直訴

国立公園拡大による問題の矮小化を避けるため、山麓住民が声をあげ続けることが重要となっている。これまでキリマンジャロ国立公園局（KINAPA）などに対して村内で抗議の声を上げることはあったが、地方自治体（州ないしは県）の長に直接会い、矮小化させることのないよう伝える。

(4) 国会での問題提起

国会での問題提起は、国立公園法を盾にする天然資源観光省にどう対抗していくかが課題となっている。これまでのように山麓住民の困窮状況や国立公園管理当局による人権侵害行為を糾弾するだけでは、この課題を克服できないことが明らかとなりつつある。このため、国立公園拡大の不当性、違法性を法律面から質していく国会戦術に切り替えていく必要がある。そこで国会議員と論点整理を行い、国会での追求実現を目指す。

(5) 人権団体（LHRC）との連携継続

LHRC に対しては、2021年度に実現できなかった政府人権委員会、天然資源観光省、警察機関との協議の実現を引き続き求めていく。また LHRC と国会議員との協議についても実現の可能性を探る。ただしこれについては両者が対立することも考えられ、慎重に検討することとする。

2. 植 林

(1) TEACA (Tanzania Environmental Action Association)

- ① 昨年度の少雨季に雨が降らず、TEACA 以外の苗畑で 2022 年度大雨季植林用の苗木が足りなくなっている。そこで 2022 年度は、TEACA からその他の苗畑に苗木を融通し大雨季植林に対応する。
- ② テマ村では村内裸地での緑化がほぼ完了しつつある。しかし国立公園拡大による HMFS の取り込みにより、村人たちは煮炊きに使う薪だけでなく、家畜の飼料となる草の確保ができず、家畜（特に牛）の保有頭数減、牛糞堆肥の施肥量不足、地力維持の困難という悪循環に陥っている。今後この問題はますます悪化すると思われ、その対策として村人の保有する土地へのマルチパーパスツリー（薪炭材、家畜飼料、土壌養分の補給等の多目的に使用できる樹木）の植林を計画する。2022 年度に育苗に着手、植林（配布が主力）開始は 2023 年度となる。

【育苗、植林計画】

(単位：本)

苗畑	合計	植林	配布	販売	育苗樹種(※)	植林場所
TEACA	7,400	2,300	4,600	500	CA、CL、CMe、CO、GR、MR、PA、PP	村内緑化
マヌ	1,800	1,400 (+700)	400 ←※※	0	GR、PP	裸地尾根森林再生
ンガンジョニ	2,000	1,000 (+400)	1,000 ←※※	0	CMe、CO、SSi、SSp、PP、TE	半乾燥地植林
HAKIMAMA	2,000	1,600 (+1,000)	400 ←※※	0	CA、GR、OC、PP	「みつばちの森」 づくり植林
合計	13,200	6,300 (+2,100) 計 8,400	6,400 ←※※	500		

※ CA=Cordia Abyssinica (ムラサキ科)、CL=Cupressus Lustanica (ヒノキ科)、CMe=Croton Megalocarpus (トウダイグサ科)、CO=Cedrela Odorata (センダン科)、GR=Grevillea Robusta (ヤマモガシ科)、OC=Olea Capensis (モクセイ科)、PA=Persea Americana (クスノキ科)、MR=Mitragyna rubrostipulata (アカネ科)、PP=Pinus Patula (マツ科)、SSi=Senna Siamea (マメ科)、SSp=Sesbania Spectabilis (マメ科)、TE=Trichilia Emetica (センダン科)

※※ ()内は、TEACA から供給。外数。TEACA の「配布数」にこの分が含まれる。

(2) HAKIMAMA (Harakati ya Mlima Kilimanjaro kwa Mazingira na Maisha) :

- ① 2022 年度は、いよいよ蜜源樹 Cordia Abyssinica による「みつばちの森」づくりの第一次植林に取り組む。植林地はキリマンジャロ東山麓ムウィカ郡の HMFS に沿う裸地。蜜源樹での植林本数は約 2 千本を計画する。
- ② キリマンジャロ南山麓キボショ地区、もしくは隣のロンボ県で、住民参加による植林に取り組む。植林本数は約 500 本を計画。
- ③ 育苗では蜜源樹の多様化が必要とされており、TEACA も含め、適正樹種の選定、育苗を行う。樹種は Calliandra Calothyris (マメ科) を考えているが、種子の調達が懸念材料である。



主力蜜源樹 Cordia Abyssinica

3. 養 蜂

当会は養蜂、養鶏を、キリマンジャロ山で厳しくなっている生活環境（森の利用禁止）、家計収入（コーヒー栽培）を補い、支えていくための重要な未来産業と位置づけている。これらの確実性をより高めていくための取り組みを今後も継続していく。

- (1) 新設計のトッパー養蜂箱はまだ手を加える必要があり、その改良に取り組む。2021 年度は設計の完了のみを目指す、間に合うようであれば試作養蜂箱 1 箱を制作する。
- (2) 営巣率向上のため、新群確保のためのキャッチボックスを設計し、2022 年度中の設置を目指す。
- (3) 蜜源としての 1 年生草本は、2021 年度も引き続き *Vicia villosa* の播種を行うが、同時に多様化にも取り組む。
- (4) 昨年度設置した新型養蜂箱での初採蜜を目指す。
- (5) キリマンジャロ山およびその周辺地でトッパー養蜂箱による養蜂に取り組む他のグループ、個人への調査を行い、実態把握を行う。

4. 養 鶏

- (1) テマ村で実施している試験養鶏が 2022 年末に通りの結果が出るため、その評価を行う。ただし 2021 年から続く物価高騰のため、採算性については物価が落ち着くまでの間、当面厳しいといえる。従って評価はとくに産卵率の側面から行う。
- (2) 品種による差異把握のため、可能であれば品種変更による第二次試験養鶏に取り組む。現在取り組んでいる試験養鶏では、タンザニアで産卵鶏として一般的な品種を用いているが、これをウガンダ産の多産系品種に切り替える。ただし第二次試験は雛の調達可否次第である。

5. 改良カマド

改良カマドの普及は、森林保全および森林からの利用排除による生活苦を少しでも緩和していくため、重要度は増すばかりである。2022 年度はテマ村において、従来の改良カマドよりさらに調理効率（熱効率）を高めることのできる新型改良カマドの導入を図るとともに、設置基数を前年度比倍増の 20 基を目指す。

6. TEACA 裁縫教室

裁縫教室は現地物価の高騰、政府の政策変更による、新入生の確保難克服が最大の課題である。2022 年度は、2021 年度に着手した教会との連携について引き続き可能性を探ることとする。また地域の成人女性を対象とした成人向けクラスの開催についても可能性を検討することとする。

7. 診療所支援

- (1) 医師用住宅建設への資金支援を継続する。ただし診療所での保険適用にあたり、インターネット等のインフラ整備に政府の支援が得られない場合は、そちらへの支援を優先して行う。
- (2) 村の診療所委員会と、診療所運営に関わるデータ取得の可否について検討を行う。

8. 学校への文具支援

2022 年度はキリマンジャロ山麓キルアヴンジョー郡マヌ小学校を対象に、全校生徒への文具支援もしくは授業用の教材、資材の支援を行う。

【国内事業】

概要

新型コロナウイルスの流行によって見送りが続いていたイベント等も、ここに来て少しずつ開催の動きが出てきています。しかしまだまだ様子見が続いています。一方、国が動き出したタンザニアでの国立公園問題への対応から、現地に赴いての活動が長期化しており、これが国内での活動を圧迫する状況となっています。

まだコロナに対する先行きの不安はあるものの、2022年度はイベントを含め、当会の活動に関心を持っていただけ方の裾野を広げられるよう、対外的な活動も少しずつ再開していきたいと考えています。また昨今定着した感のある zoom 等を活用したネットによる交流、活動報告の機会も設けていきます。

1. ニュースレター、現地通信

ページ数を絞った簡易版 2 回の発行を含め、年 4 回の発行ができるようにする。現地からのハガキ通信は 1 回とするが、渡航期間が長期に及ぶ場合は 2 回届けられるようにする。

2. インターネット利用による交流、活動報告

Zoom 等のインターネット会議システムを利用した報告会、活動紹介について、SNS で呼びかけていく。現地と直接結ぶことは現地のネット環境や時差の関係から難しいが、動画なども活用して現場のリアリティを伝えられるようにしていきたい。

3. ホームページのリニューアル

これまで Web 作成を手伝っていただいていたボランティアの方が時間を作れなくなってしまったため、新たにサイト構築ができるボランティアの方を探す必要が出ている。2022 年度に何とか新ホームページをアップできるようにしたい。

4. 現地プロジェクト視察

現地プロジェクト視察、ホームステイプログラムは、新型コロナウイルスの世界的流行によりこの 2 年間で中止してきた。しかしアフリカ全体で流行が下火となってきたことから、受け入れを再開する。受け入れは従来通り、当会の現地調査と重なるタイミングで現地に入られる方を対象とする。

5. 昨年度の未達成課題

(1) 日本の養蜂家との関係作り：

キリマンジャロ山で今後さらに養蜂の積極展開を図っていくためには、当会が養蜂に対するさらなる実践的知識、技術を獲得していく必要がある。そのため日本国内において養蜂の現場に接し、タイムリーに専門的立場から助言が得られることが重要であり、国内養蜂家との関係づくりに取り組む。

(2) 日本国内の教会との関係づくり：

キリマンジャロ山に多い福音ルーテル派教会と日本国内の同教会を橋渡しし、交流活動に結びつけることができないか、また国内活動での連携や活動紹介の機会が作れないか、事務所近くにある教会を訪ねるなどして、機会を探ることとする。

(3) インターネットを活用したタンザニア物品販売：

収入機会ともなっていたイベント出展への機会がコロナの影響によりまったくできなくなっている。このため、ネット利用による物品販売に取り組む。新ホームページにそうしたページを組み込めないかについても検討する。

6. その他

タンザニアのカウンターパート HAKIMAMA よりロゴマーク作成の依頼を受けており、デザイン関連のスキルを持ったボランティアを募集し、完成させる。



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布布東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103